

## 11 非行・犯罪等をする者に対する意見

Q14 次のような人について、あなたの考えをうかがいます。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか
- イ あなたは「覚せい剤」を使う人についてどう思いますか
- ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか
- エ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか
- オ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか
- カ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか
- キ あなたは「振り込め詐欺」をする人についてどう思いますか

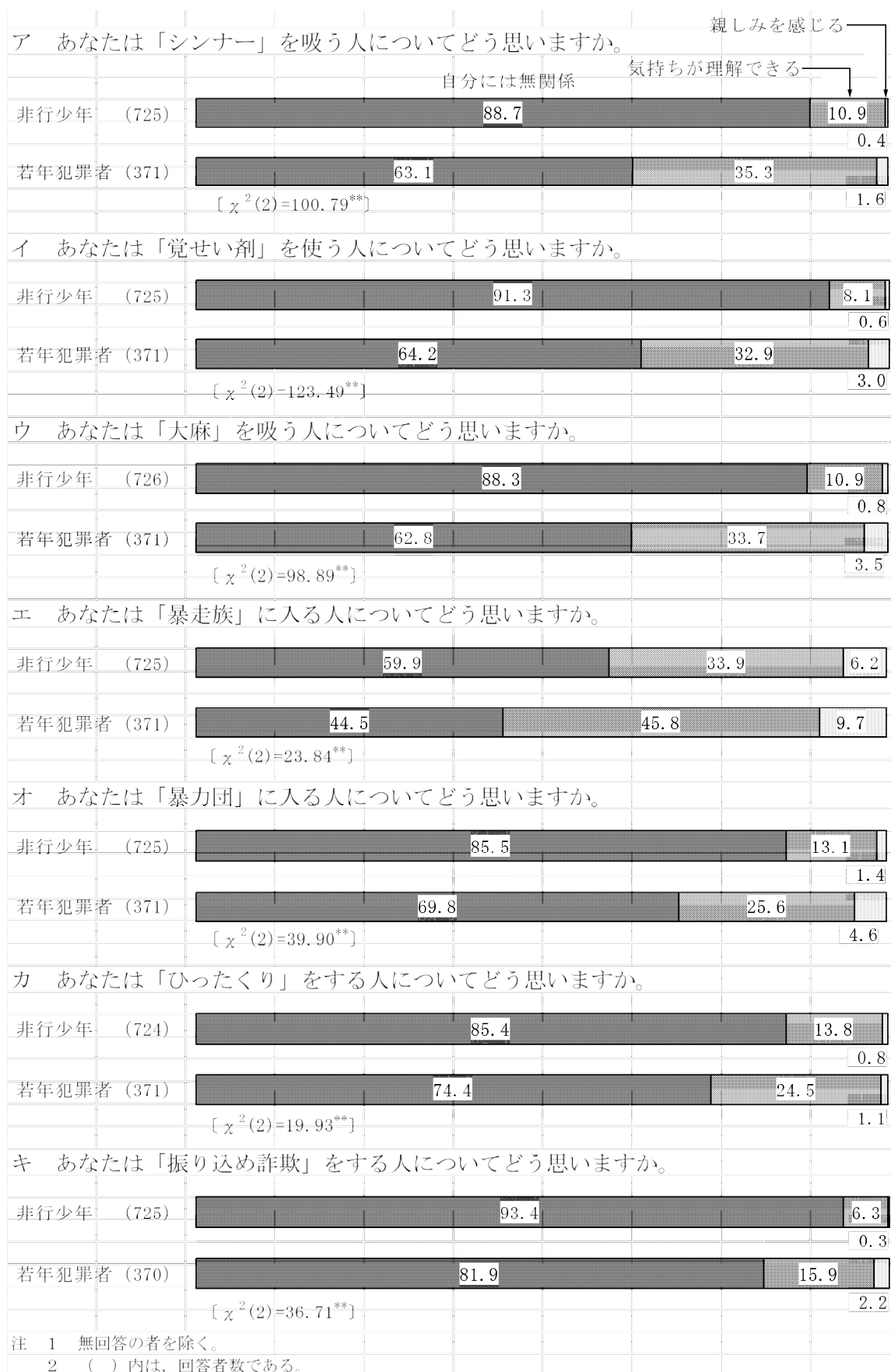
(選択肢)

- 1 自分には無関係      2 気持ちが理解できる      3 親しみを感じる

### (1) 非行少年・若年犯罪者別の比較

この質問は、各種の問題行動に対する意識を捉えるため、今回調査で新たに追加されたものであり、2-11-1図は、各質問への回答状況を、非行少年・若年犯罪者別に見たものである。いずれの質問についても、非行少年は、若年犯罪者に比して、「自分には無関係」とする者の構成比が高く、若年犯罪者は、非行少年に比して、「気持ちが理解できる」とする者の構成比が高くなっており、若年犯罪者の方が、各種の問題行動に親和的である。

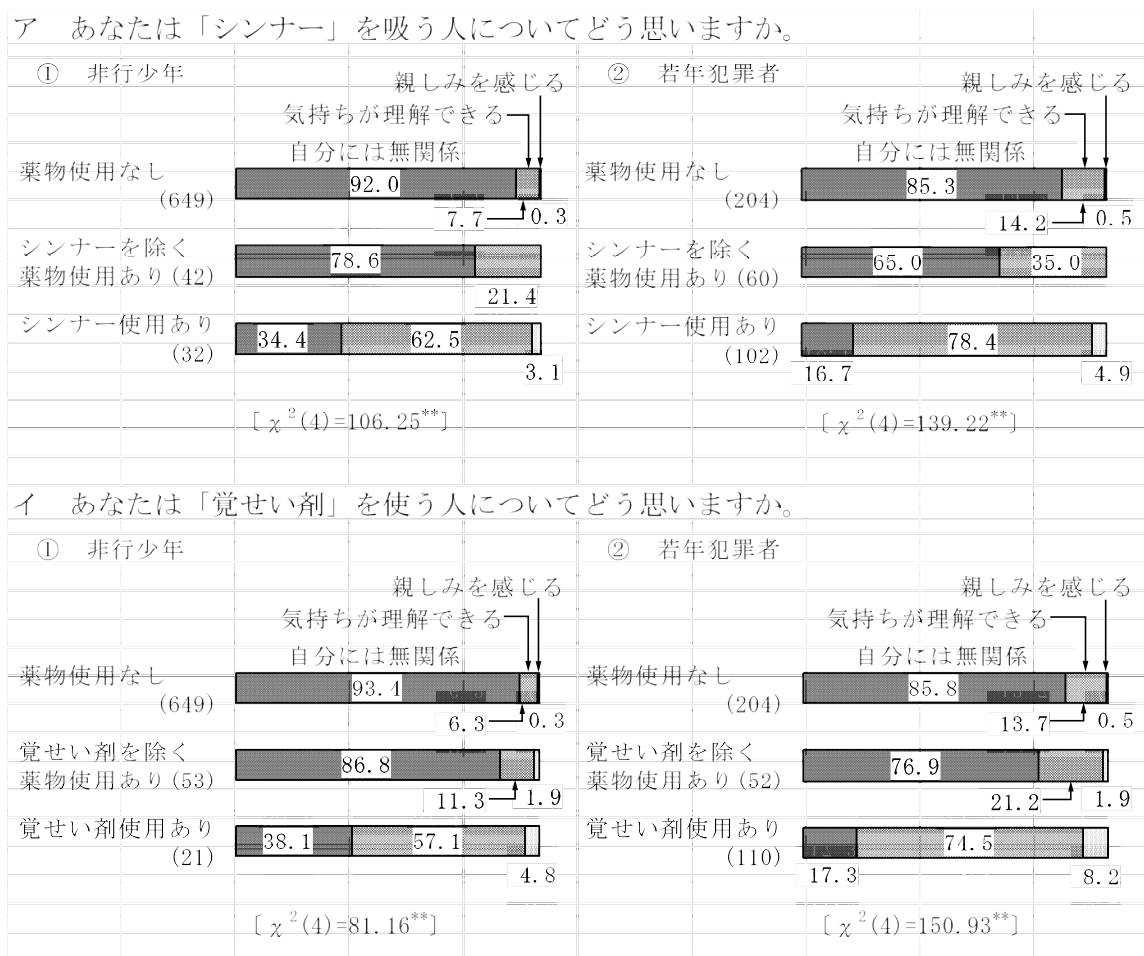
2-11-1 図 非行・犯罪等をする者に対する意見

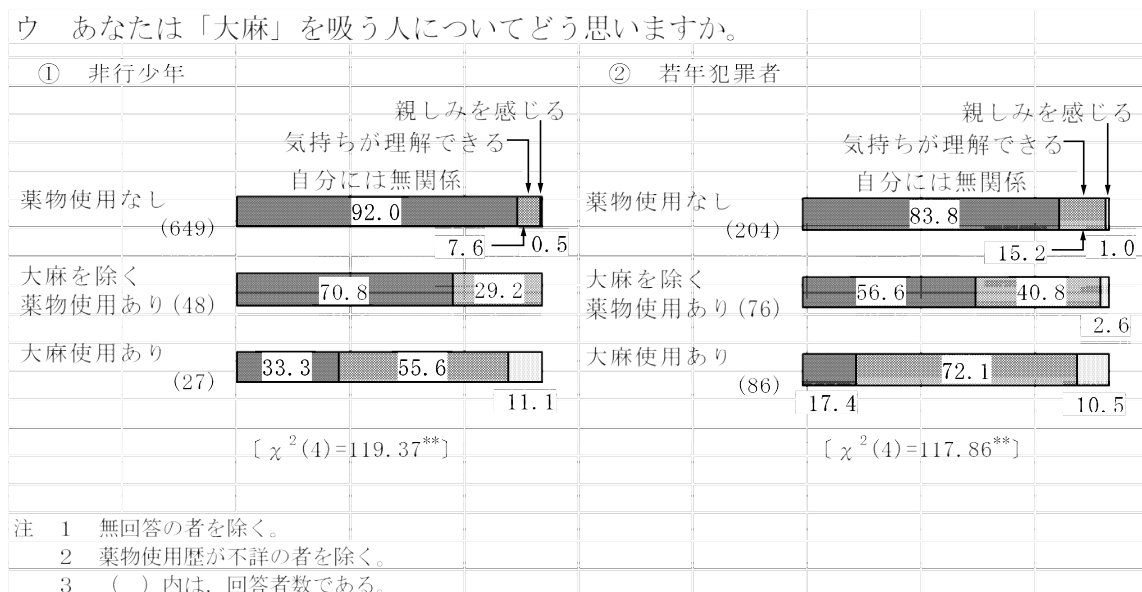


(2) 薬物を使用する者に対する意見

2-11-2図は、薬物使用歴別に、シンナー、覚せい剤及び大麻を使用する者に対する意見を見たものである。薬物の種類によらず、非行少年、若年犯罪者共に、薬物使用歴のない者では、薬物を使用する者について「自分には無関係」であるとする者の構成比が高い。しかし、薬物使用歴のある者でも、当該薬物を使用している者と使用していない者では、意識に大きな違いがあり、当該薬物を使用していない者では、当該薬物の使用歴のある者と比べて、「自分には無関係」であるとする者の構成比が顕著に高く、「気持ちが理解できる」とする者の構成比も低い。

2-11-2図 薬物を使用する者に対する意見（薬物使用歴別）

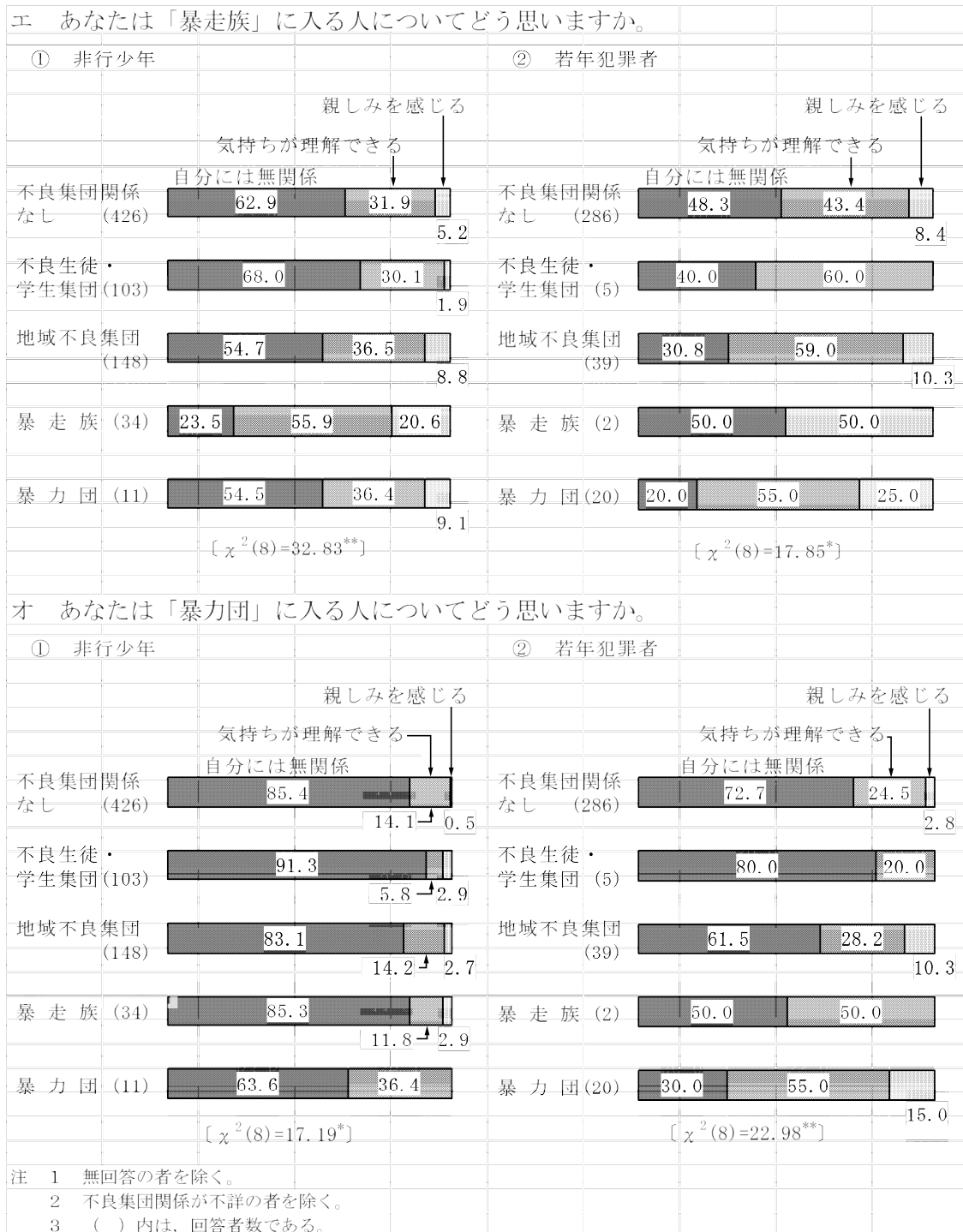




### (3) 暴走族・暴力団に入る者に対する意見

2-11-3図は、暴走族・暴力団に入る者に対する意見を不良集団関係別に見たものである。暴走族に入る者については、非行少年、若年犯罪者共に、不良集団との関わりのない者であっても、「気持ちを理解できる」又は「親しみを感じる」とする者が合わせて3割を超えている。暴力団に入る者については、非行少年では、自ら暴力団に所属している者を除き、「自分とは無関係」とする者の構成比が8割を超えており、暴走族と関わりのある者であっても、暴力団にはあまり親和していない状況がうかがえる。

2-11-3 図 暴走族・暴力団に入る者に対する意見（不良グループ関係別）



(4) 保護処分歴別の比較

保護処分歴別に見ると、非行少年、若年犯罪者共に有意差が見られたのは、「シンナーを吸う人」（非行少年  $\chi^2(4)=18.61^{**}$ 、若年犯罪者  $\chi^2(4)=15.27^{**}$ ）及び「暴走族に入る人」（非行少年  $\chi^2(4)=12.38^*$ 、若年犯罪者  $\chi^2(4)=20.33^{**}$ ）に対する意見であり、「自分には無関係」とする者の構成比が、保護処分歴のない者では高く、少年院送致歴を有する

者では低かった。非行少年のみに有意差が見られたのは「覚せい剤を使う人」( $\chi^2(4) = 12.51^*$ )に対する意見であり、また、若年犯罪者のみに有意差が見られたのは「暴力団に入る人」( $\chi^2(4) = 11.02^*$ )に対する意見であったが、いずれも、「自分には無関係」とする者の構成比が、保護処分歴のない者では高く、少年院送致歴を有する者では低かった。

なお、薬物関連項目について、薬物の使用歴のない者に限ってみると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、非行少年における「シンナーを吸う人」( $\chi^2(4) = 13.48^*$ )及び「覚せい剤を使う人」( $\chi^2(4) = 11.58^*$ )であった。同様に、不良集団関連項目について、不良集団関係のない者に限って見ると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、若年犯罪者における「暴走族に入る人」( $\chi^2(4) = 16.07^*$ )のみであった。

## 12 心のブレーキ

Q24 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 父母のこと            | 2 兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと |
| 3 友達から仲間はずれになること   | 4 学校や職場に対する迷惑のこと    |
| 5 社会から白い目で見られること   | 6 警察につかまること         |
| 7 自分で自分がいやになるから    | 8 その他               |
| 9 特に心のブレーキになるものはない |                     |

### (1) 経年比較等

この質問は、10年調査から追加された質問であり、2-12-1図は、非行や犯罪をしようとしたときの心のブレーキとなるものとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を、経年比較したものである。10年調査及び17年調査と比較すると、今回調査では、「父母のこと」を選択した者の比率が高くなっている。ただし、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が17年調査までと比べて低く、両者を合わせた「家族」として見ると7割弱であって、これまでの調査の6割超と大きくは変わらず、家族が非行や犯罪の心的抑止力として大きな意味を有し続けていることが分かる。

次に、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、若年犯罪者では、非行少年と異なり、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が「父母のこと」の選択率より高かった。また、非行少年と比べると、「学校や職場に対する迷惑のこと」を選択する者の比率が低く、「自分で自分がいやになるから」及び「特に心のブレーキになるも